国　　語

第１問　次の文章を読み，以下の問いに答えよ。

武夷山*1の老茶師が，わたしに薄茶色の地味な小袋を三つくれた。

「お茶の名前は何ですか」

むろん岩茶*2であるのはわかっているが，袋に茶の名前が書かれていなかったので，訊いた。

ところが老茶師はにこっと笑っただけで，教えてくれなかった。

彼はいじわるをしているのではない。遊んでいるのだ。そう思った。

茶目っ気のある遊びだけれど，もらったわたしは，ちょっと［　A　］気分になる。今度会ったとき，「あの〇〇茶の味はこうでした」と，茶の名前を添えて感想を伝えるのが礼儀だからだし，わたしも岩茶と真剣につき合ってきたのですよと，自信を伝えたいからだ。

そういう意味でも，遊びは闘いである。その闘いに双方が満足すれば，信頼関係はさらに強く，豊かになる。だから，もらうほうは楽ではないのだ。

ひと袋に十グラムの岩茶が入っていた。全部で三十グラム。良い岩茶だろうと想像はつく。が，それ以外のことは，見当もつかなかった。

さて，だれと飲もうか。それに悩むのも，お茶の楽しいところだ。

そのときちょうど大阪出張があり，関西のお茶仲間十人と飲むことにした。

彼らは批判も称賛も，大阪人特有の歯に衣着せず語ってくれる。冗長ではあるが，試飲にはおもしろい面々である。

「この岩茶の名前はわかりません。ポンと渡されただけですから」と，わたしはまず断りを入れ，老茶師とのそのときの状況を話した。みんな［　B　］の表情になる。

場所は大阪，難波にある名刹，黄檗宗鉄眼寺の一室。

水は浄水器を通しただけの大阪の家庭用水道水。茶道具は銅ヤカン，宜興*3の紫砂茶壷（急須），茶海*4は，茶の色が透明か濁りがあるかがはっきり見える透明なガラス製のものを，茶杯は景徳鎮*5の白磁，火はガス，すべて普段使っ

ているものを用意した。

淹(い)れる人は，大阪のある高等学校教師で，中国茶通の田前正さんが指名された。

一煎め。茶葉を乾燥させた炭の味がまだ残っていた。味ははっきりしなかった。しかし仕上げの乾燥には，竜眼(りゅうがん)の炭火を使っているようであった。

竜眼の炭火はやわらかくて，じっくりゆっくり火が回るので，上質の岩茶を乾燥させるときに使う。が，この火で乾燥させる茶業者は，今はほとんどいない。

竜眼は福建省の特産品で，味と果肉の色は荔枝(ライチ)によく似た，夏のおいしい果物である。竜眼の木炭で乾燥させる茶は，上質な茶に限られる。

現在，ほとんどの茶業者は電気乾燥仕上げ。炭火仕上げは上質の茶葉ならば一度に三百グラムくらいしかできない，時間のかかる，厄介な手仕事なのだ。

注意しなくてはならないのは，たいした茶葉ではないのに，［　C　］故意に焦げ臭く電気乾燥させている茶業者が多く，一煎めは，炭火仕上げか電気乾燥仕上げか，巧妙にわかりにくくさせている茶葉があるということだ。見分け方は，炭火の場合は，焦げた味ではなく，炭の残り香であるということ。電気乾燥の場合は，まさしく焦げた味で，飲むに耐えない。

味にうるさいこの日の人たちは，一煎めを飲んだ後，一斉に沈黙した。おいしいからではないようだった。炭の匂いが鼻について，「落第」と言っているような沈黙であった。

三煎めまでに炭の匂いが消えなければ，失格品。その場合は，どうしてわざわざ炭火を使ったのか，不可解さだけが残ってしまう。

二煎め。炭の匂いが［　D　］。でも，味はまだ輪郭を現してこない。

三煎め。炭の匂いは完全に消えた。茶の味は朧月(おぼろづき)のように，ぼんやり感じられた。田前さんは顔を上に向けて口を閉じ，舌を盛んに動かしている。

「たいしたお茶ではないと思う。もう飲まなくてもいいんと違います？」ひとりの女性が痺(しび)れを切らしたように感想を述べた。

そのときわたしの舌は，砂糖四，五粒くらいの甘味を，鼻の奥のほうでは蘭(らん)のような花の香りを，微(かす)かにだが，捉えていた。［　ア　］それは，「良いお茶であってほしい。せっかくみんなが集まってくれたのだから。どうか，あの老茶師の悪ふざけでありませんように」という願いが感覚脳に伝わり，味覚，嗅覚が

錯覚を起こし，条件反射的に，甘味と香りを感じさせていたのかもしれなかった。

「甘味が出ましたね，蘭のような花の香りがありますね」などと軽率に言ってしまうと，突っ込みが得意な大阪の人に「同じお茶なのに，こっちのお茶にはありませんけどね」なんて言われそうで，わたしは口を閉ざしてしまったのだった。

そんなとき別のひとりが，「たいしたお茶ではないと思う」と，田前さんにストップをかけた。しかし彼はトボケた表情を見せるだけで，淹れる手を止めなかった(I)。

四煎めを飲んだ。繊細な苦味と，はっきり捉えられる甘味が，忽然(こつぜん)と現れた。

「いやァ，じれったいお茶ですわ」ひとりが言った。初めはあきれ返って，やがて愉快そうに。

その味は，淡い甘味に上品な苦味が溶け合って，我慢した分を取り返させてくれるように，舌を喜ばせてくれたのであった。

「ついに正体を現してくれた。しつこく淹れた甲斐があった」そう言って，彼は四煎めの味に，ほかの九人などいないかのように，ひとりうっとりとしていた。

名前も知らないその岩茶は，こちらが根負けするほど，それから延々と良い味を出し続けたのである。

その岩茶の味は重からず軽からず，渋味はなく，喉を通過した後に回(かえ)ってくる香りは，風に運ばれて幽(かす)かに届く春蘭を思わせてくれた。

逃げてゆく味，散ってゆく香りは，たくさんある。その味，香りをタイミングよく捉えるのは，岩茶を淹れる人の腕ひとつにかかっている。が，その岩茶のように，根負けしそうなほどじれったいお茶は，めったにあるものではない。加えて言えば，蘭の香りのある茶は最高級品と，中国の茶人は言う。名茶をつくる人は，蘭の香りを目指してつくるというし，淹れる人は，蘭の香りが出るようにと，祈る気持ちで淹れるのだそうだ。

苦味，甘味，渋味 ―― そのお茶には，何ひとつ突出した味はなかった。そしてないようである香り ―― このような状態を，中国では中庸(ちゅうよう)と表現するらしい。そのお茶は三煎めでその兆(きざ)しを見せ，四煎めにして中庸の味を，一碗の茶に現してくれたようであった。そう感じたわたしは，

「何煎めかに，きっと真の味が出るって，信じていたのですか」諦めないで淹

れていた田前さんに訊いてみた。彼は大阪人らしい冗談口調で，

「電気で仕上げた焦げ臭さではなかった。木炭で乾燥させて仕上げていますから，いつ味が出てくるか，楽しんでいたんです」と言ってのけた。

周りの突っ込みを朗らかにかわしながら淹れ続け，飲み続けられる人は，真にお茶を楽しめる人なのだろう。教師の彼は，毎日忙しい。忙しい男が，お茶をゆっくり楽しむ。五碗，六碗，七碗と，幸せそうな表情で茶を淹れて，楽しむ。そういう男の茶三昧（ざんまい）には遊びがある。軽（かろ）みがある。

名前のわからないそのお茶をわたしにくれた老茶人は，武夷四大名茶のひとつである「水金亀（すいきんき）」づくりの専門家ですよという話を，いつの年かは忘れたけれど，武夷山に行ったとき，だれかから聞いたような気がする。わたしはそれをすっかり忘れていたのだった。

老茶師にしてみれば，わたしの記憶を信じて，わざわざ「これは水金亀ですよ」と言わなかっただけなのかもしれない。

あのとき彼は無印の小袋三つをさりげなくわたしの手の平に載せて，さっさと姿を消してしまったのだが，今思えば，

「あなたはこの水金亀の真価がわかりますか」と，問うていたのかもしれない。

わたしはテストされていたのかもしれない。

もしもそうならば，こういうところに中国の茶人の手強さがある。

わたしは頼りない記憶にすがって，

「この岩茶は水金亀かもしれないですね」と，賑やかに，あの店のチョコレートを食べてみたいだとか，あそこのコロッケは安くておいしいとか，喋りまくっている大阪の男女に向けて推理を口にしてみたのだが，だれも聞いてはいなかった。

もっとも，わたしも味と香りから「水金亀」を導き出したわけではないので，大阪人の勝手なお喋りは一向に気にはならなかったし，［　イ　］ホッとしてもいたのである。

味覚，嗅覚の記憶は頼りないものである。しかし炭の衣の奥深くに隠された茶の味を，めげず諦めず，早々に評価を下さなかった［　E　］のおかげで，めったに出会う機会のない中庸とも言える味に遭遇できたのは，収穫であった。

その次の年の夏，武夷山で老茶人にお会いしたとき，わたしは勇気を持って，いただいたお茶の名前を口にして，感想を述べた。

「淹れるのがむずかしい水金亀でした。三煎めに甘い味と繊細な苦味が現れ，春蘭のような香りも感じました。みんなでおいしくいただきました」

老茶人は破顔一笑(Ⅱ)して，

「水金亀の母樹の葉でつくったのですよ」と正体を明かしてくれたのだった。

わたしは胸を撫で下ろした。宝くじに当たったみたいに，いい気分だった。年をとるにつれ，こういう何の足しにもならないようなことが歓びを生み，幸せを味わわせてくれるものだと，しみじみ思ったものである。

注：＊1　武夷山・・・中国福建省にある景勝地。

＊2　岩茶・・・武夷山の岩山に生育する茶樹から取れる茶。

＊3　宜興・・・中国江蘇(こうそ)省にある都市。

＊4　茶海・・・ポットのような大きめの容器で，茶の濃さを均一にするために用いられる。

＊5　景徳鎮・・・中国江西省にある都市。

（佐野典代『ものがたり　茶と中国の思想』平凡社，2020年。ただし，出題のために一部変更した。）

問1　空欄（A）にあてはまる最も適切な語を，以下から一つ選べ。 1

① 楽しい　② 軽やかな　③ 悲しい　④ 重い　⑤ 優雅な

問2　空欄（B）にあてはまる最も適切な語を，以下から一つ選べ。 2

① 天真爛漫　② 興味津々　③ 喜怒哀楽　④ 一喜一憂　⑤ 四面楚歌　⑥ 面目躍如

問３　空欄（C）にあてはまる最も適切な文章を，以下から一つ選べ。 3

① 茶葉の正体を隠すために

② 時間と手間を節約するために

③ 茶葉をしっかり乾燥させるために

④ 茶葉の産地を偽装するために

⑤ 独特の苦みを抽出するために

問４　空欄（D）にあてはまる最も適切な語を，以下から一つ選べ。 4

① さらに強く感じられた

② 依然として強く残っている

③ 波のように押し寄せてきた

④ 引き潮のように遠ざかった

⑤ 口から鼻へと抜けてゆく

問５　空欄（ア）・（イ）に入る語として，最も適切なものを以下から一つずつ選べ。ただし，それぞれの空欄には異なるものが入る。

ア 5 ，イ 6

① つまり　② しかし　③ むしろ　④ もっとも

⑤ あるいは　⑥ さらに　⑦ なぜなら

問６　下線部(I)の理由として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 7

① せっかく大勢で集まったのに，途中でやめてしまうのは失礼だから。

② 上質な茶であって欲しいという期待を抱いていたから。

③ 上質の茶だという確信があり，その味に出会うことを楽しみにしていたから。

④ 「たいしたお茶ではない」という仲間の言葉が信用できなかったから。

⑤ 名茶として知られる武夷山の岩茶を飲める機会はめったにないから。

⑥ 他の人よりも先に，上質の茶の独特の甘みと香りを十分に感じていたから。

問７　空欄（E）にあてはまる最も適切な語を，以下から一つ選べ。 8

① 茶業者　② 中国の茶人　③ 武夷山の老茶人

④ 関西のお茶仲間たち　⑤ お茶仲間の女性　⑥ 田前さん

問８　下線部(II)の語の意味として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 9

① 相手の顔色をうかがって愛想笑いをすること。

② 相手の無知をあざ笑うこと。

③ 表情を崩して豪快に笑うこと。

④ 表情をほころばせて微笑むこと。

⑤ 表情を緩めて相手の緊張感を解きほぐすこと。

問９　筆者が考える「水金亀」の真の味とはどのようなものか。最も適切なものを，以下から一つ選べ。 10

① 味に偏りがなく微かに果物の香りが感じられる。

② 味に偏りがなく微かに花の香りが感じられる。

③ 杯を重ねるたびに独特の甘みが増していく。

④ 杯を重ねても苦味，甘味，渋味がしっかりと感じられる。

⑤ 炭の香りが微かに残っていて香ばしい。

⑥ 常に安定した中庸の味が感じられる。

問10　本文の内容としてより適切なものを，以下から二つ選べ。

11 ， 12 （順不同）

① 淹れる人の腕次第でお茶の味と香りは変化する。

② ゆっくりとお茶を楽しむ男性には人としての重みがある。

③ お茶の品質を正しく見極めるには遊び心を持つことが重要である。

④ お茶を楽しむ人には味覚，嗅覚の鮮明な記憶が残っている。

⑤ 武夷山で採れる岩茶はどれも根負けするほどじれったい。

⑥ 武夷山で出会った老茶人は私に茶の真価を見極める力があるかどうかを試していたのかもしれない。

⑦ 「水金亀」は中国茶の中で最も美味しい。

⑧ 中国では故意に焦げ臭く乾燥させる茶人が多いので注意が必要だ。

第2問　次の文章を読み，以下の問いに答えよ。

1942年，イギリス軍に従軍していたリチャード・ラドフォードはドイツ軍に捕えられ，西洋人の捕虜収容所に入れられた。もともと経済学者だったラドフォードは，戦争が終わってから，収容所の体験を経済学の視点で書き残した。

収容所では捕虜の国籍別に建物が分かれていて，行き来は自由だった。赤十字が捕虜の生活環境を監視し，スイスの本部から定期的に物資を送っていた。その中には食べ物やタバコ，コーヒー，紅茶，チョコレートといったものが入っていた。

赤十字からの物資は単調な収容所生活の楽しみで，捕虜は小包を心待ちにしていた。喫煙者はとくに，物資が届く日を指折り数えて待っていた。

捕虜の嗜好(しこう)はそれぞれに違っていたが，小包の中身はみな一緒だった。あるとき，フランス人将校が嗜好の違いを逆手に取ろうと考えた。フランス人はコーヒー好きで，紅茶はあまり飲まない。一方，イギリス人はその逆だ。そこで国籍の違う捕虜のあいだで物資を交換することにしたのだ。

赤十字が物資を荷下ろしすると，商才に長けたフランス人がフランス人捕虜に近づいてきて，紅茶をもらうかわりにコーヒーをあとで届けると約束する。その商売人は紅茶を持ってイギリス人捕虜が収容されている建物に行くと，コーヒーと交換して，約束どおりフランス人捕虜のところに戻る。

でもなぜそんなことをしていたのだろう？　どんな得があったのだろう？

フランス人商人はコーヒーと紅茶の交換から儲けを得ていた。なぜそんなことができたのか？　イギリス人から受け取るコーヒーの一部を懐に入れ，少ない量をフランス人に渡していたのだ。

つまり，この商人はフランス人から安く紅茶を仕入れ，紅茶を愛するイギリス人に高く売りつけていたということだ。この場合の「値段」は，ポンドやマルクやドルといった通貨ではなく，コーヒーの量で示されていた。ある市場で安く品物を仕入れ，別の市場で高く売ることを，経済学では「裁定取引（アービトラージ）」という。

ほかの商人も収容所での裁定取引のチャンスにすぐに気づいて，同じことをし

はじめた。競争が激しくなればなるほど，商人の懐に入るコーヒーの量は減っていった。受け取る量と渡す量の差，つまりサヤが商人の儲けになる。サヤが小さくなればなるほど，利益は減っていく。

ではここで，取引にあとから参入したパスカルという商人を例にとってみよう。

パスカルはフランス人に渡すコーヒーの量を増やさなければ，商売を奪うことはできなかった。つまりそれは，紅茶の買い入れ価格を上げるということだ。パスカルに追随する商人が増えると，フランス人収容所における紅茶の値段は［　A　］。

同時にイギリス人収容所でも同じことが起こってコーヒーの値段は上がっていき，やがてはフランス人にもイギリス人にも，どれだけの紅茶とどれだけのコーヒーが交換されるかが完全にわかるようになった。

すると，パスカルもほかのフランス商人たちも，サヤを抜くことができなくなった。捕虜たちが全員，コーヒーと紅茶の交換価値をわかってしまったからだ。つまり商人たちのおかげで紅茶の値段が確定したものの，その過程でサヤは抜けなくなり，商売にならなくなった。

しばらくすると，収容所の取引はかなり複雑になっていった。紅茶とコーヒーを交換したり，コーヒーとチョコレートを交換したりといった直接取引のシステムが手間になってきた。

想像してみてほしい。カナダ人がコーヒー100グラムを10枚の板チョコと引き換えに売りたがっているとしよう。コーヒーの欲しいフランス人は，板チョコは手元になく，紅茶しか持っていなかったとする。するとそのフランス人は多少の調べもののあとに，カナダ人にこう提案する。

「コーヒーは欲しいけど，チョコはない。でも紅茶はある。Ｃ５ビルにいるスコットランド人は板チョコ１枚と紅茶15グラムを交換するそうだ。私の紅茶150グラムとあなたのコーヒー100グラムを交換し，あなたがスコットランド人にその紅茶を渡して［　ア　］を受け取ったらどうだろう？」

最初はそんなふうに取引が行われていたが，まもなく大きな変化があった。ある品物が他のすべての物資の取引媒体として使われるようになった。その品物が実質的な通貨になったのだ。

タバコは収容所でいちばんよく売れる嗜好品だった。喫煙者，すなわちニコチン中毒者は，タバコを手に入れるためなら悪魔にも魂を売り渡さんばかりだった。

ということは，タバコを吸わない人たちは有利な立場に立てる(1)。赤十字からの小包は非喫煙者にも同じものが配られ，その中にはタバコも入っていた。

非喫煙者にとってタバコは何の経験価値もないが，大きな交換価値があった。タバコは喫煙者にとっては経験価値があり，非喫煙者にとっては交換価値があったため，全員がタバコを欲しがるようになった。

あっという間に，タバコは収容所内の物資の相対価格，つまり交換価値を測る単位になった。なぜタバコだったのだろう？　何が通貨になるかは半分が偶然で決まり，半分はそのものの性質によって決まる。

通貨は腐らず長持ちするものでなければならない。魚やパンは通貨にならない。持ち運びが簡単で，ポケットに入るくらいのものが理想だ。簡単に小分けにできるもののほうがいい。そして，その魅力がコミュニティ内の全員にむらなく共有されるものでなければならない。

ラドフォードの記録を読むと，タバコが通貨として使われるようになった経緯がわかる。タバコには３つの特徴と役割があった。

まず，喫煙者にとっては欠かせないものだった。次に，手軽で便利に値段の比較ができ，取引媒体として使えた。最後に，タバコは貯め込むことができ，辛い収容所生活を送る捕虜たちのへそくりになった。

中でもいちばん興味深いのは，タバコが交換価値を保管する手段として利用されたことだ。タバコには便利な取引媒体以上の価値があった。タバコはいざというときの備えになるのだ。

ここに新しい儲けのチャンスと新しいリスクが生まれた。貯め込んだ［　B　］。

もちろん，貸したタバコを返してもらえないというリスクはある。すなわち貸し倒れリスクだ。貸したタバコを相手が全部使ってしまうかもしれないし，すべて吸ってしまって返せなくなるかもしれない。

しかし，それ以外にもうひとつ，別のリスクがあった。

赤十字から送られてくる小包の中に，たまにタバコがいつもより多く入ってい

ることがあった。ただし，コーヒーとチョコレートと紅茶の量は変わらなかった。

収容所内で流通するタバコの量が増えると，同じタバコの本数で買えるコーヒーとチョコレートと紅茶の量は減る。増えたタバコの総量が，それよりは少ないコーヒーとチョコレートと紅茶の総量に相当することになるため，タバコ１本あたりに相当するコーヒーとチョコレートと紅茶の量が減るからだ。反対のこともあった。タバコの総量が減ってほかの物資の量が同じままなら，タバコ１本あたりの交換価値は上がる。つまりタバコの購買力が上がる。

要するに，通貨の購買力は，その生産コストとは何の関係もなく，相対的な希少性または潤沢さによって決まるということだ。

ある捕虜が高価なものを買うためにタバコを大量に貯め込んでいたとしよう。そこへ赤十字が突然，大量にタバコを送ってきたら？　タバコの交換価値は急落し，その捕虜の倹約と節制は無駄になる。

通貨があることで取引は円滑になり，より多くの商品がより速く取引されるようになる。一方，通貨は信頼されなければ機能しない。誰もがこの先もずっとその通貨を取引に使うことを信じていなければならない。そのためには，その通貨の交換価値がこの先もずっと維持されるとみんなが信じていなければならない。

ある晩，連合軍が，収容所の近くの地域を爆撃した。次第に爆撃が近づき，収容所の中にも爆弾が落ちはじめた。捕虜たちは生きて朝を迎えられるかビクビクしながら夜を過ごした。

翌日，タバコの交換価値は急上昇した。あたりに爆弾が落ち，不安に苛まれていた捕虜たちが，夜通しずっとタバコを吸い続けていたからだ。翌朝，タバコの総量は他のものにくらべて劇的に減っていた。以前ならタバコ５本で板チョコ１枚と交換だったのに，タバコ１本で板チョコ１枚と交換できるようになった。

つまり，爆撃が「デフレ」を引き起こしたのだ。ものに対して貨幣の量が相対的に減ると，すべての物価が下がる。逆にシステム内の貨幣総量が増えると，その反対のことが起きる。これが「インフレ」だ。

（ヤニス・バルファキス（関美和 訳）『父が娘に語る美しく，深く，壮大で，とんでもなくわかりやすい経済の話。』ダイヤモンド社，2019年。ただし，出題のために

一部変更した。）

問１　空欄（A）にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。 13

① 上がり続け，儲けは減っていった

② 上がり続け，儲けは増えていった

③ 下がり続け，儲けは減っていった

④ 下がり続け，儲けは増えていった

⑤ 不安定になり，儲けは減っていった

⑥ 不安定になり，儲けは増えていった

問２　空欄（B）にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。 14

① タバコを売って現金を得るチャンスだ

② タバコを売ってチョコレートを手に入れるチャンスだ

③ タバコを売ってキャラメルを手に入れるチャンスだ

④ タバコを貸して現金を得るチャンスだ

⑤ タバコを貸して人望を得るチャンスだ

⑥ タバコを貸して利子を得るチャンスだ

問３　空欄（ア）にあてはまる最も適切なものを，以下から一つ選べ。 15

① タバコ５本　　② タバコ10本

③ 板チョコ５枚　　④ 板チョコ10枚

⑤ コーヒー100グラム　　⑥ コーヒー150グラム

問４　下線部(1)の理由として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 16

① タバコの奪い合いから距離を置くことができたため。

② タバコを吸いたい時に不足する心配がなかったため。

③ タバコの代わりに赤十字に別のものを要求できたため。

④ タバコの支給がなくなっても不便を感じないため。

⑤ タバコを自分で消費する必要がなかったため。

問５　本文中で使用されている経験価値の説明として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 17

① 板チョコ１枚に出せる最大の金額。

② タバコ１本に出せる最大の金額。

③ 経験することによって得られる金銭の価値。

④ 経験することによって得られる幸福感や満足感の価値。

⑤ これまでの経験を金銭に換算した価値。

問６　タバコが実質的な通貨として利用された理由としてより適切なものを，以下から二つ選べ。 18 ， 19 （順不同）

① すべての人にとって生活必需品であったため。

② すべての人にとって大きな価値があったため。

③ チョコレートより換金性が高かったため。

④ コーヒーや紅茶よりも換金性が高かったため。

⑤ 小分けや保管するのに便利だったため。

⑥ 品質が良く安定していたため。

問７　赤十字からの小包に予想より多くのタバコが入っていた場合，経済的にマイナスの影響が生じるのは誰か。最も適切なものを以下から一つ選べ。

20

① 喫煙者
② 非喫煙者
③ タバコを多く保有していた商人
④ タバコを保有していなかった商人
⑤ 誰も該当しない

問８　本文の内容としてより適切なものを，以下から三つ選べ。

21 ， 22 ， 23 （順不同）

① サヤが抜けなくなると，商人は手数料収入しか得られなかった。
② 喫煙者だけでなく非喫煙者にとっても，タバコには価値があった。
③ フランス人将校は，捕虜の中で比較的行動が自由だった。
④ 収容所の中でもお金があれば，大半のものを入手できた。
⑤ 交換価値が一度安定すれば，もう変動することはない。
⑥ タバコの価値は不安定で，通貨としては失格だった。
⑦ サヤを抜く商人がいなくなると，取引が複雑化することがある。
⑧ 通貨の購買力は外部からの要因で，突如大きく変わることがある。
⑨ タバコは安定して支給されたため，通貨として適していた。

第３問　各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを，以下から一つ選べ。

問１　将来はリヨウ師になりたい。 24

① 計画が失敗してドウヨウを隠せない。

② 彼はいつもシヨウマッセツにこだわる。

③ 候補者としてヨウリツされた。

④ 事件のゼンヨウが明らかになった。

⑤ 学園祭で日本ブヨウを披露した。

問２　犯罪グループのシュボウシャを発見した。 25

① 大統領の車はボウダン仕様になっている。

② 重要な言葉にボウセンを引いた。

③ 外国とのボウエキで利益を得た。

④ 進路をボウガイされた。

⑤ 彼は正にシンボウエンリョの人だ。

問３　賃貸住宅の契約をコウシンする。 26

① 両軍のキンコウが崩れる。

② 授業の前にコウイ室に急ぐ。

③ 圧政に対して徹底コウセンを続ける。

④ 銅山のコウドウを進む。

⑤ コウカイドウの大ホールを予約した。

問４　リョウシュウ書を大切に保管する。 27

① 学生リョウから大学に通う。

② ドウリョウと食事を楽しんだ。

③ 誰が一番なのかイチモクリョウゼンだ。

④ 体調を崩してリョウヨウしている。

⑤ 支配リョウチの拡大を狙う。

問５　サイバンショを見学する。 28

① 家庭科の授業でサイホウを習う。

② 庭で野菜をサイバイしている。

③ 救国サイミンの志で政治を学ぶ。

④ 彼は学生時代からイサイを放っていた。

⑤ その件についてはイサイショウチしています。

問６　世の中からヘンケンをなくしたい。 29

① 古墳のシュウヘンを調査する。

② ガラスのハヘンに注意する。

③ 雑誌のヘンシュウ作業に追われる。

④ 富のヘンザイは社会を不安定にする。

⑤ おヘンロさんとして四国の霊場をめぐる。

問７　少年野球のシンパンをしている。 30

① 堤防のフシンが遅れている。

② 公園の近くでフシンシャの目撃情報があった。

③ 成績フシンから脱却したい。

④ 業績を回復させるためにフシンしている。

⑤ ミスが重なり取引先のフシンを買ってしまった。

問８　泳ぐ前に準備タイソウをする。 31

① 海に憧れてソウセン技術を学ぶ。

② 事件のソウサが難航している。

③ ソウドウに巻き込まれないように注意する。

④ 冬は空気がカンソウする。

⑤ この山はソウナン者が後を絶たない。

問９　その提案にはシュコウできない。 32

① コウテイ文と否定文を学習する。

② 修学旅行のコウテイを確認する。

③ 総理には住まいとしてコウテイが用意される。

④ 書物のコウテイ作業に取り組む。

⑤ 製造コウテイの短縮に成功した。

問10　納期が迫って作業にハクシャがかかった。 33

① 2025年に大阪で国際ハクランカイが開催される。

② ハクライの品を専門に取り扱う。

③ いつまでもハクシュが鳴りやまなかった。

④ ハクシャク家で舞踏会が開かれた。

⑤ 意志ハクジャクな人になってはいけない。